

平成23年度 東海北陸地区国立大学図書館協会研修会

電子書籍の現在, 本の未来

2011年10月3日

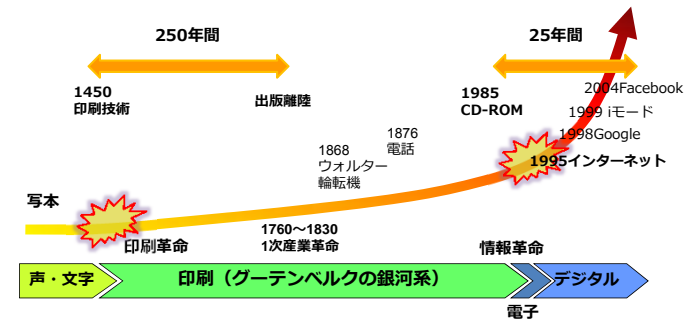
植村八潮

東京電機大学出版局

IEC TC100 TA10 TAM

情報量増大の社会的・技術的要因

印刷複製技術と伝達方法によって出版が変化
デジタル複製とネット流通によって劇的な変化



2011/10/3

© Yashio Uemura 2011

2

電子書籍ブーム

- ブームの背景: 出版不況, 米国プラットフォーム
- コンテンツ: 印刷書籍のデジタル化 / 試行錯誤
- 政策(三省): 日本型ビジネスの模索 / 国際競争力
- ビジネス連携: 数々のアライアンスが誕生
- デバイス: 電子書籍端末が登場したが...
- 活字離れではなく, 情報流通の変化と読書の多様化



2011/10/3

© Yashio Uemura 2011

3

電子書籍端末の歴史

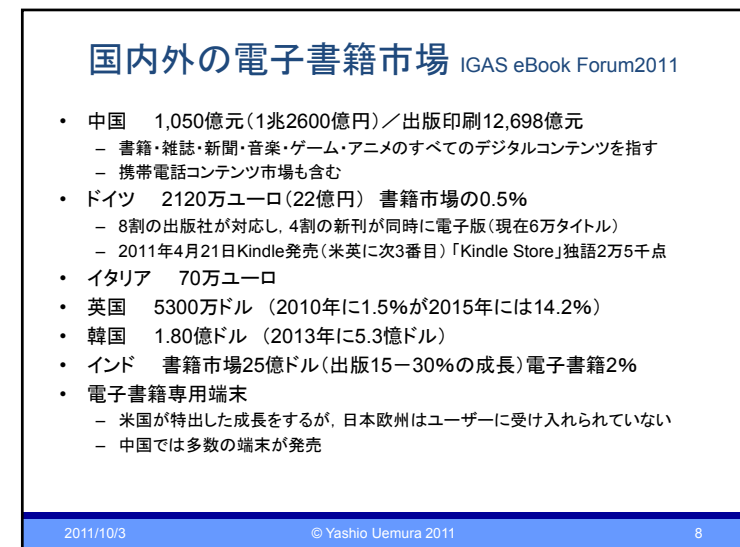
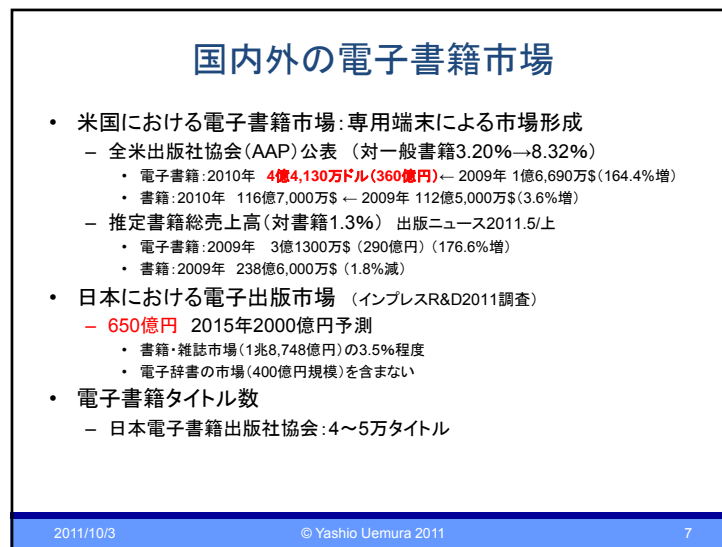
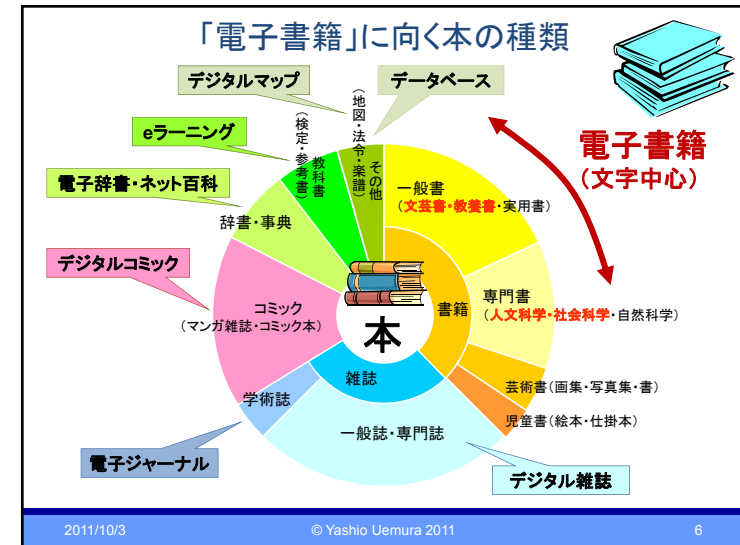
- 1990 データディスクマン (ソニー)
- 1993 デジタルブック (NEC), インターネット商用利用
- 1994 オンライン雑誌『hotwired』, Netscape Navigator
- 1995 CD-ROM『新潮文庫の100冊』, Windows95発売
- 1998 ボイジャーT-Time, ロケットeブック (米国)
- 1999 電子書籍コンソーシアム実証実験開始
- 2002 eブック総崩れ状態 (米国)
- 2004 リブリエ (ソニー), シブブック (松下)
- 2006 iLiad (iRex), ワーズギア (松下)
- SONY Reader (米国ソニー)
- 2007 Kindle (アマゾン)
- 2009 Kindle2, nook
- 2010 iPad (アップル), Kindle3, GALAPAGOS (シャープ)
- 2011 iPad2, Kindle Fire

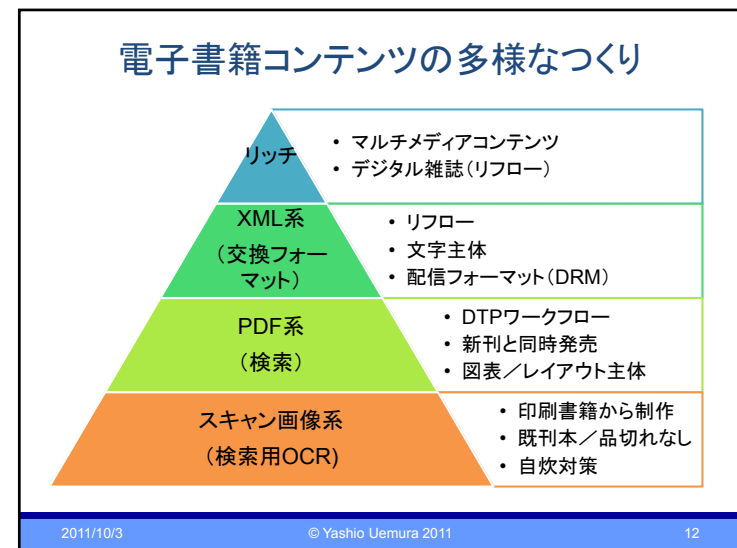
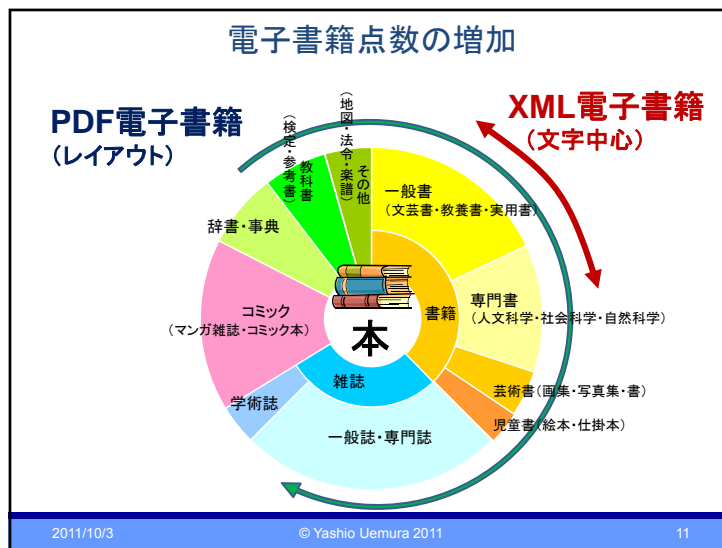
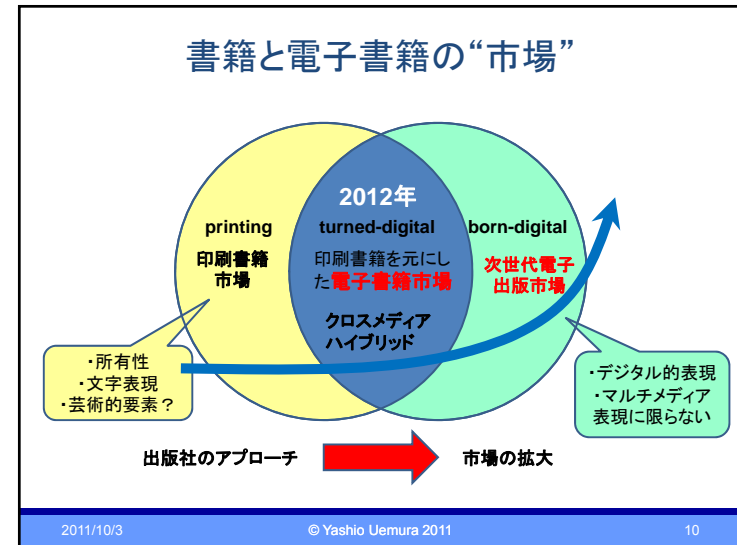


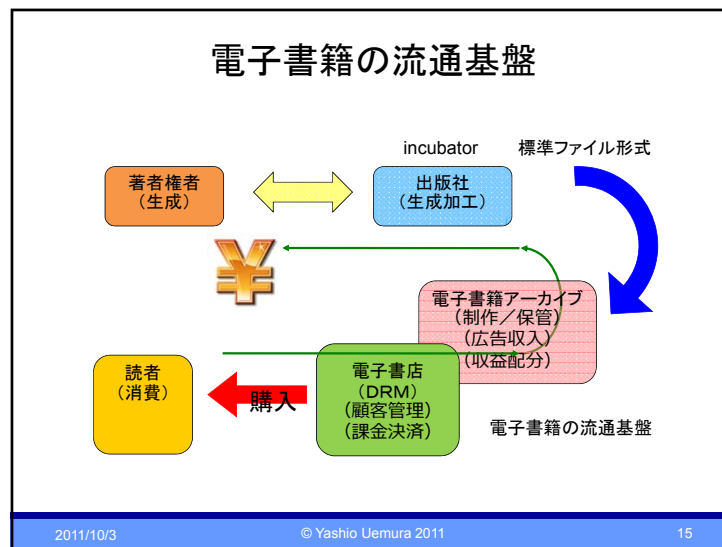
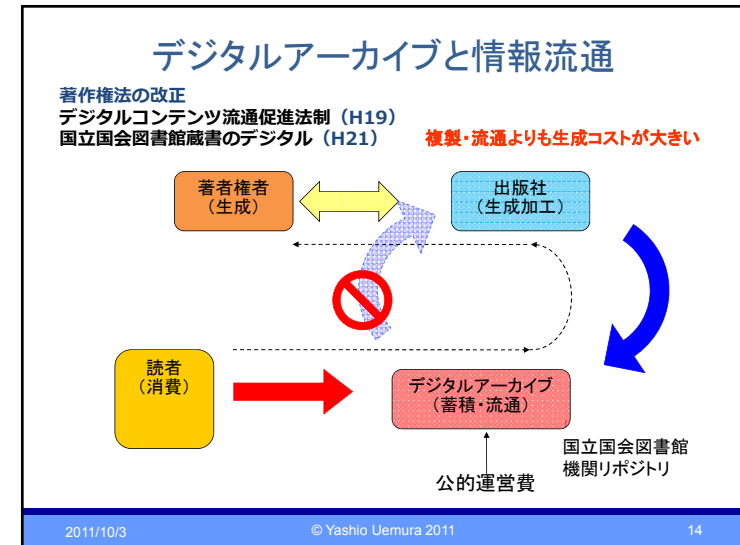
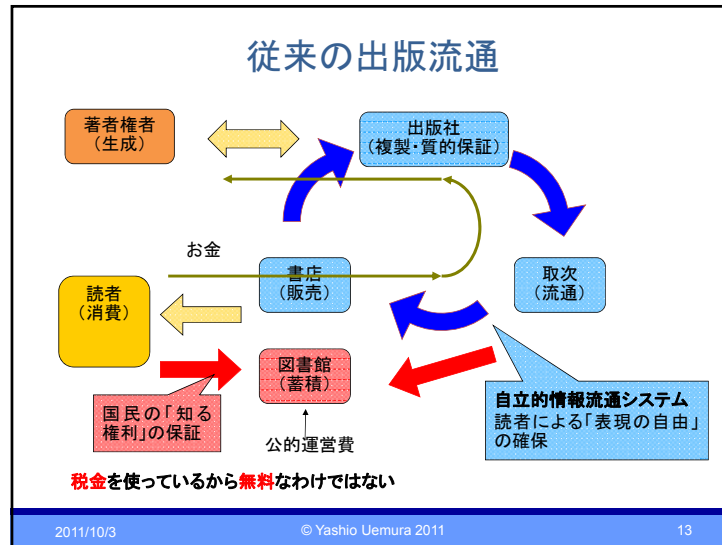
2011/10/3

© Yashio Uemura 2011

4

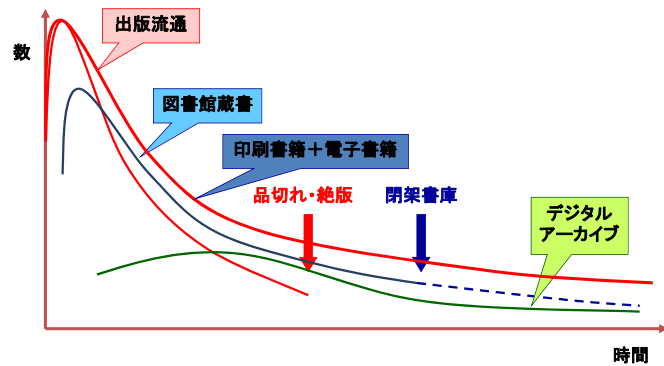






- ## 出版デジタル機構(仮称)
- すべての出版物のデジタル化を目指す
 - 電子出版ビジネスの公共的インフラを整備
 - 国内で出版されたあらゆる出版物の全文検索を可能にする
 - 出版物のデジタルデータの保管
 - すべての出版物のデジタル化の支援
 - 電子書店への配信業務のサポート
 - 図書館に対する窓口機能
 - 国立国会図書館が電子化をおこなった雑誌・書籍の民間活用の担い手
 - 各社の著作権者への収益分配を支援

出版流通と図書館蔵書とデジタルアーカイブ

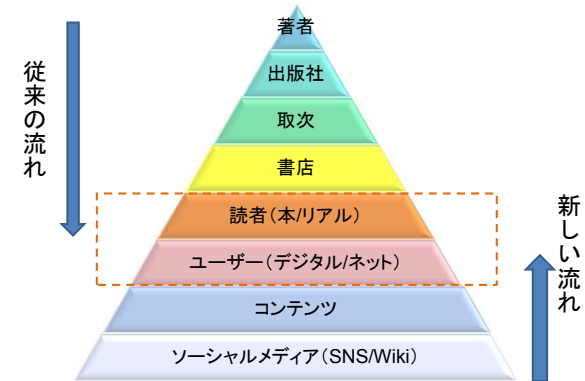


2011/10/3

© Yashio Uemura 2011

17

コンテンツの生産と流通消費



2011/10/3

© Yashio Uemura 2011

18

知識の生産・流通基盤の地殻変動

新たな情報基盤の登場

グーグルブック検索(巨大なネット電子図書館)
デジタル・アーカイブ(知識データベース)
Wikipedia などの「集合知」

文化産業の二面性

「我々の守るべきもの」と「我々のビジネスモデル」の乖離

本/図書館/大学

- 知識の構造化/体系化
- 個人の知識(作家性)
- 責任の所在(実名)
- 信頼性/権威性
- 保証

ネット情報基盤

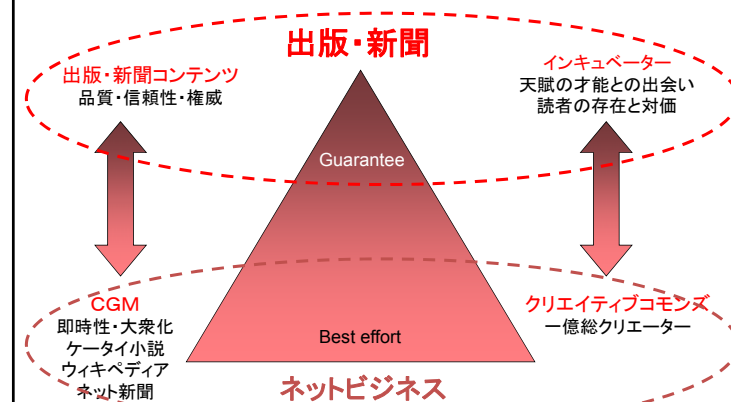
- 情報の検索/データの集合体
- 集合知
- 責任の分散/曖昧性(匿名)
- オンデマンド/カスタマイズ
- 最大効果

2011/10/3

© Yashio Uemura 2011

19

コンテンツと「信頼性」



2011/10/3

© Yashio Uemura 2011

20